

アウフギーサー・熱波師

「プロフェッショナルとして 大切にしたい 12 の姿勢」

1. 主役は自分ではなく、ゲストである

アウフグース・熱波の主役は自分ではない。主役は常にゲストである。自分を見せるために風を送るのではなく、ゲストにとって心地よい体験を提供するために風を届ける。

2. サウナへの敬意を忘れない

サウナは、熱波やアウフグースがなくても成立する。サウナそのものに価値があり、私たちはその価値をさらに豊かにするために存在している。熱波やアウフグースは主役ではない。主役はサウナとゲストである。

3. 奉仕の心を持つ

アウフギーサー・熱波師はサービス業である。ゲストに喜んでもらいたい。心地よく過ごしてもらいたい。元気になって帰ってもらいたい。その気持ちを持ち続ける。技術のためにゲストがいるのではない。ゲストのために技術がある。

4. 謙虚である

経験、資格、受賞歴、知名度は、人間としての価値を決めるものではない。どれだけ経験を積んでも、学ばせていただいているという姿勢を忘れない。謙虚さを失った時、人としての成長も止まる。

5. 「俺様熱波」にならない

自信を持つことは大切である。しかし、自信と慢心は違う。「自分はすごい」「自分は偉い」「自分が一番だ」という考え方は、やがてゲストや仲間との距離を生む。称賛を受けることがあっても、それは自分一人の力ではない。施設、仲間、サウナ、そしてゲストがいて初めて熱波は成り立っている。称賛に酔わず、感謝を忘れない。

6. 歓迎される存在になる

熱波師は技術だけでは評価されない。どれほど上手にタオルを振ることができても、『今日はあの人の熱波は受けたくない』と思われてしまえば、プロフェッショナルとは言えない。表情、言葉遣い、身だしなみ、立ち振る舞い、仲間への接し方。そのすべてがサービスである。ゲストにも仲間にも、『また会いたい』『また受けない』と思ってもらえる存在を目指す。

7. 安全を最優先する

優れた演出よりも、安全。高度な技術よりも、安全。迷った時は必ず安全を選ぶ。守るべきものは、ゲストの安全だけではない。自分自身の安全、仲間の安全、施設の安全も同じように大切である。安全を守れない者はプロフェッショナルではない。

8. 人を見る

アウフギーサーはタオルを見るのではなく、人を見る。ゲスト一人ひとりの表情、呼吸、発汗、様子を観察し、その人に合った風を届ける。また、人を見るとは、特定の人だけを見ることではない。常連だけを優先しない。仲の良い人だけに特別な対応をしない。すべてのゲストを平等に迎え入れ、誰もが安心して参加できる空間をつくる。特に、初めて参加するゲストや不安を感じているゲストには、より丁寧な配慮が求められる。

9. 仲間と協力する

アウフギーサーは一人では存在できない。施設スタッフ、仲間、先輩、後輩、ゲスト。多くの人との協力によって、良いサウナ体験は生まれる。協力されたいのであれば、まず自分から協力する。信頼されたいのであれば、まず自分が信頼に値する人間になる。約束を守る。責任を果たす。感謝を伝える。仲間を尊重する。その積み重ねが信頼を生み、安心して任せられる存在につながる。

10. 学び続ける

サウナ文化、熱、蒸気、香り、安全、健康。学びに終わりはない。経験を重ねても、初心を忘れず、常に成長し続ける姿勢を持つ。『自分はもう十分だ』と思った時、人は成長を止める。他者の助言に耳を傾けなくなった時、プロフェッショナルとしての成長も止まる。後輩から学ぶこともある。ゲストから学ぶこともある。仲間から学ぶこともある。良いアウフギーサーとは、素直さと謙虚さを持ち、生涯学び続ける人である。

11. 熱波は信頼の上に成り立つ

熱波は、一人ではできない。ゲストからの信頼。仲間からの信頼。施設からの信頼。そのすべてがあって初めて、熱波師として活動することができる。信頼は、特別な行動によって得られるものではない。日々の小さな積み重ねによって、少しずつ築かれていく。良い熱波師とは、技術が高い人ではなく、『また会いたい』『また来てほしい』と思われる人である。

12. 自分自身も整える

アウフギーサー・熱波師は、人を整える活動を行う。しかし、人を整える活動は、自分自身を犠牲にして行うものではない。人を元気にするためには、まず自分自身が元気であること。人を笑顔にするためには、まず自分自身が笑顔でいられること。サウナや熱波によって、自分自身が健康になり、心が整い、生きがいや居場所を得ることは、決して悪いことではない。むしろ、それは自然なことであり、大切なことである。サウナが好きだから続けられる。熱波をした後の達成感が好きだから続けられる。仲間と過ごす時間が楽しいから続けられる。終わった後の一杯がうまいから続けられる。そのような、自分自身の喜びや幸せもまた、熱波を長く続けるための大切な力となる。アウフギーサー・熱波師は、ゲストのウェルビーイングを支える存在である。しかし同時に、自分自身もウェルビーイングであり続けることが大切である。身体が整い、心が整い、人とのつながりを感じ、生きがいを持って日々を過ごす。そのような状態であってこそ、人に良い風を届けることができる。ただし、自分のためだけになってしまった時、人を見ることができなくなる。自分だけが満たされればよいと思った時、風は人の心に届かなくなる。良いアウフギーサーとは、『自分も整い、人も整える』ことができる人である。自分の喜びと、人の喜び。その両方が調和した時、長く続けることのできる本当の風が生まれる。

結び

アウフギーサー・熱波師とは、単にタオルを振る人ではない。人を整え、人に寄り添い、人を元気にする存在である。良い風は技術だけから生まれるのではない。良い風は、その人の生き方から生まれる。風は心から生まれる。